「気候変動の影響を踏まえた琉球諸島沿岸海岸保全基本計画検討委員会」

第３回（総括）

＜気候変動の影響を踏まえた計画外力に関する検討結果＞

1. 高潮
   ・各海岸の地域特性を考慮するため、海岸保全施設が存在する箇所で評価する。
   ・設計高潮位は各海岸保全施設での最大潮位（基準潮位+計画潮位偏差）をもとに設定
   ・確率評価による B-1 手法の変化比について、各エリアにおける平均倍率を採用した。
   ・代表海岸において、現行外力と将来外力で必要天端高を試算した結果、必要嵩上げ高さは0.1～4.1m 程度となった。（直立堤防評価。なお、離岸堤等の沖合施設は未考慮。）
2. 津波
   ・海面上昇量を考慮した設計津波解析を実施した。
   ・津波水位と比較して、設計外力は概ね高潮外力で決まることが想定された。
3. 海岸侵食
   ・海面上昇量に対して、汀線後退量を概算した。
   ・侵食対策は今後の研究成果や測量結果も考慮しながら期間をかけて評価する必要がある。

＜気候変動の影響を踏まえた計画外力の今後の検討方針＞

1. 高潮
   ・高潮推算モデルの計算結果について、30m メッシュと 90mメッシュとの比較検証を行ったが、30m メッシュの計算過程におけるラディエーションストレスの与え方等を再精査した上で、どちらのメッシュサイズを採用するか決定する方針。
   ・代表海岸における気候変動の影響を踏まえた必要天端高の試算については、今回提示できなかった残りの代表海岸についても、引き続き試算を行う方針。
2. 津波
   ・各地区海岸の高潮外力と比較して、高い必要天端高を採用する方針。
3. 海岸侵食
   ・代表海岸における気候変動の影響を踏まえた汀線後退量の概算については、今回提示できなかった残りの代表海岸についても、引き続き概算する方針。
   ・ただし、侵食対策は今後の研究成果や測量結果も考慮しながら期間をかけて評価する方針。